私の音楽療法活動を振り返る

２０２４年６月２日（日）、大分音楽療法研究会

熊本　庄二郎　（くまもとココロクリニック）

馬々虎々会（まあまあふうふうかい）1995～2000

井上　良治　先生

- 大正１１年生まれ
- 正光会今治病院名誉院長（精神科医）
- 沢木興道（禅宗）に傾倒
- 平成１３年、永眠

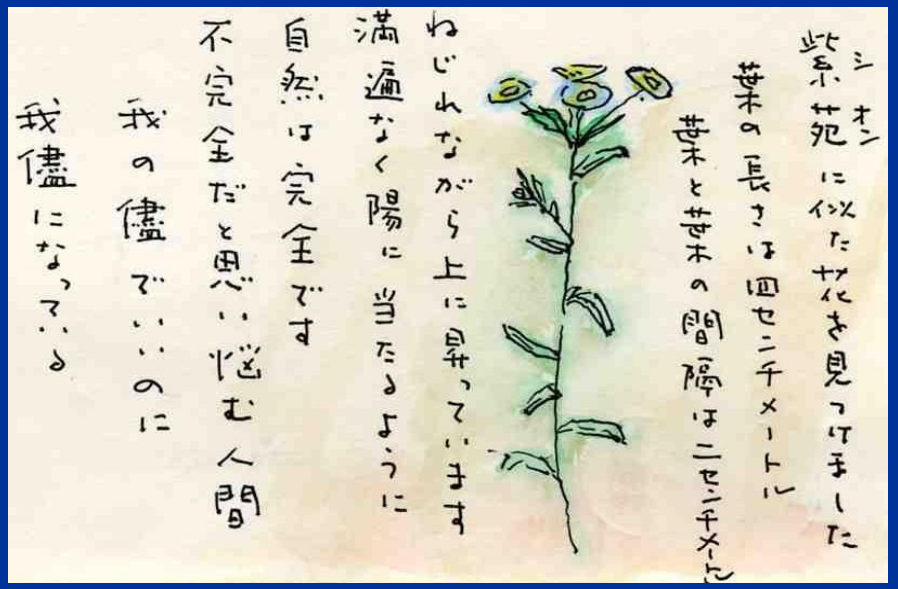
⇒「倒れたところが到達点」（倒木）

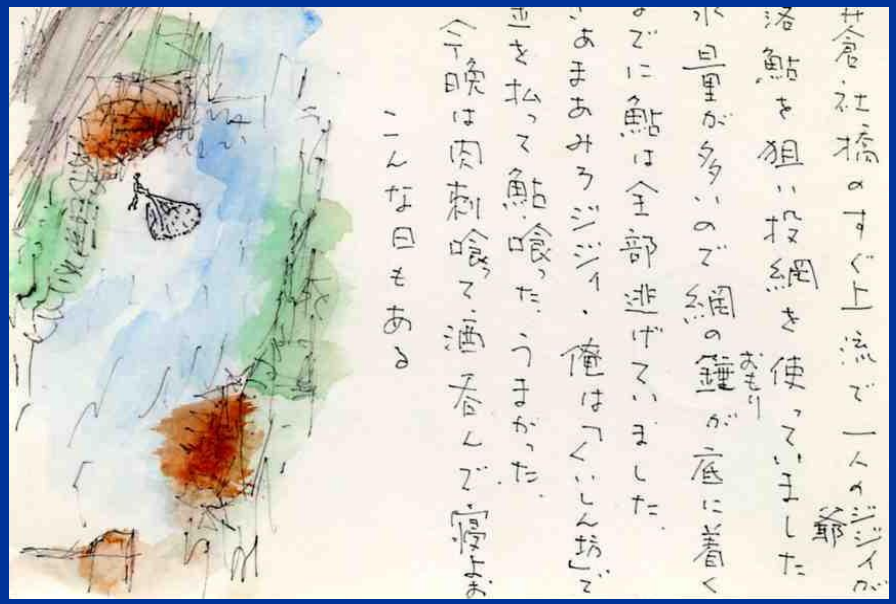
桧垣　寛　氏（金さん）

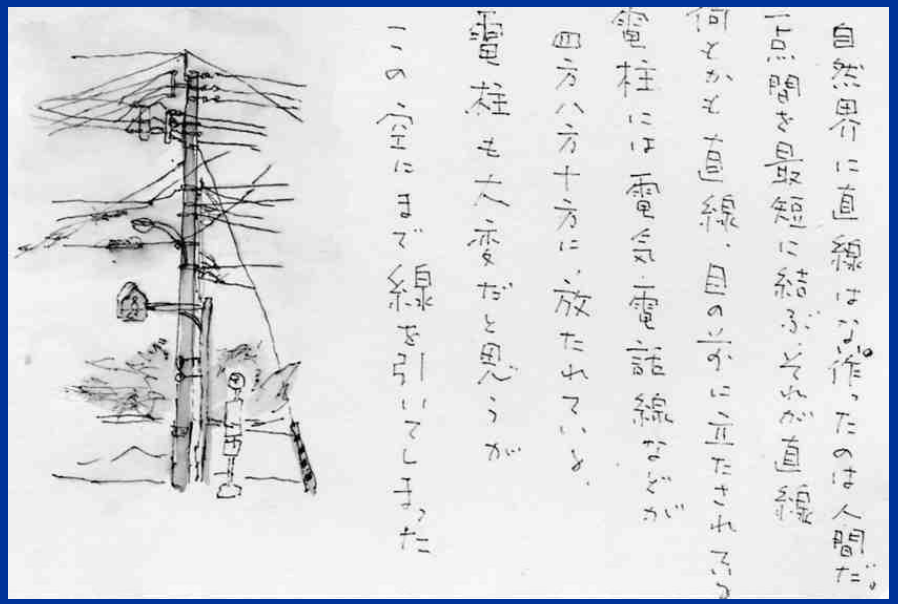
- 昭和２７年生まれ
- マコトヤ薬局店主（薬剤師）
- 遊び人で世話好き

金さんからの手紙　1

今朝瀬戸大橋の見える波方大角海岸に
行きました。一人の釣人が糸を垂れています。
急ぐから車に乗るのか。
車に乗るから急ぐのか
車を降りて海を見て
いると動いているのは波だけ
釣人も僕もじっとしていた

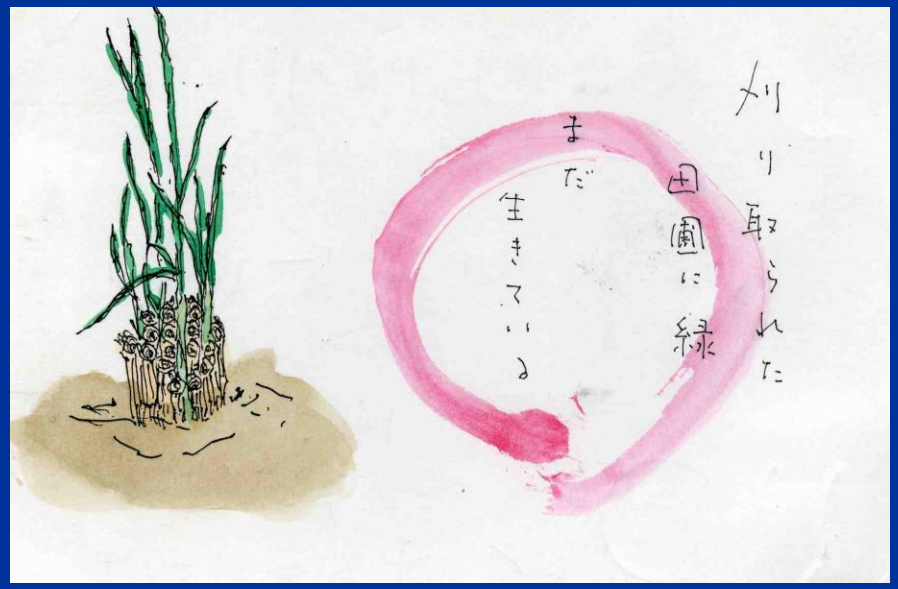

紫苑（シオン）に似た花を見つけました
葉の長さは四センチメートル
葉と葉の間隔は二センチメートル
ねじれながら上に昇っています
満遍なく陽に当たるように
自然は完全です
不完全だと思い悩む人間
我の儘でいいのに
我儘になっている

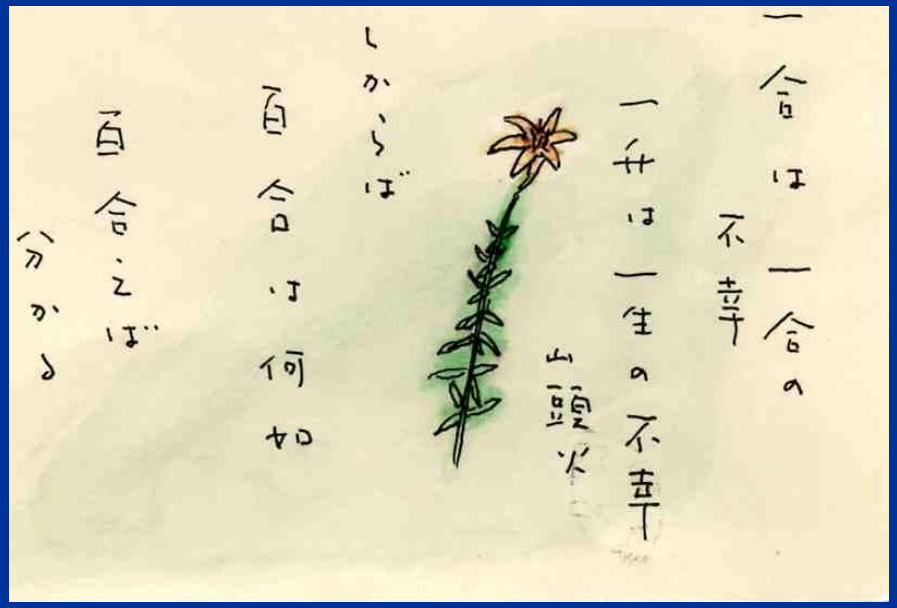

井倉・社橋のすぐ上流で一人のジジイが
落鮎を狙い投網を使っていました
水量が多いので網の錘（おもり）が底に着く
までに鮎は全部逃げていました。
さあまあみろジジイ、俺は「くいしん坊」で
並を払って鮎喰った。うまかった。
今晩は肉刺喰って酒呑んで寝よお
こんな日もある

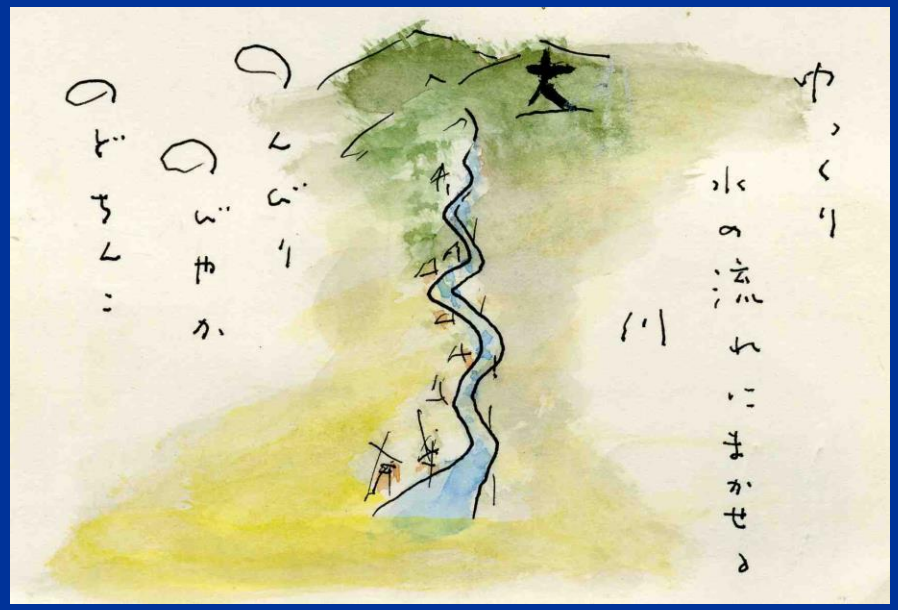

自然界に直線はない。作ったのは人間だ。
一点間を最短に結ぶ。それが直線
何とかも直線、目の前に立たされている
電柱には電気・電話線などが
四方八方十方に放たれている。
電柱も大変だと思うが
この空にまで線を引いてしまった

金さんからの手紙　２

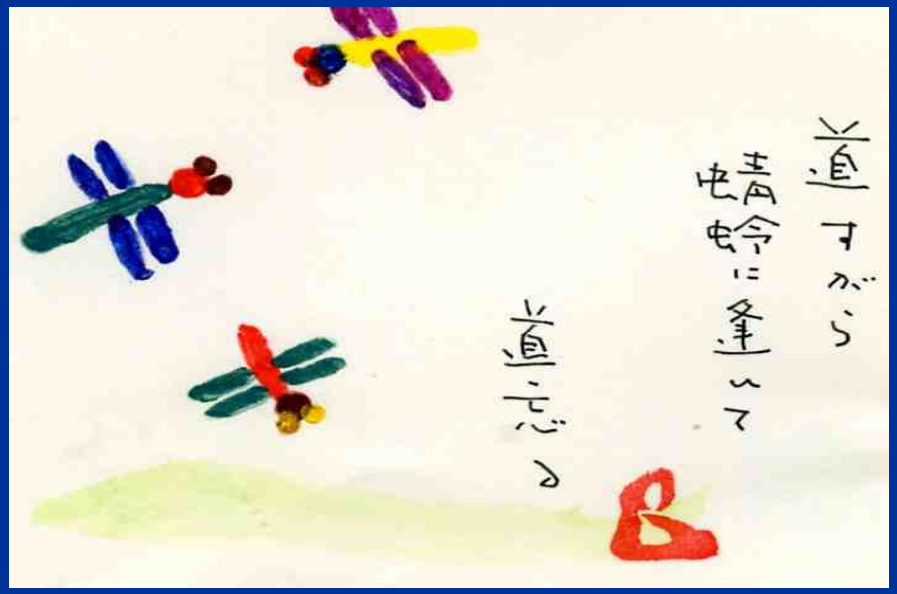
紫陽花
雨に濡れて
七変化
紫陽花の葉を皿にみたて
鰹のアライを乗せ
冷酒で
一献
梅雨入

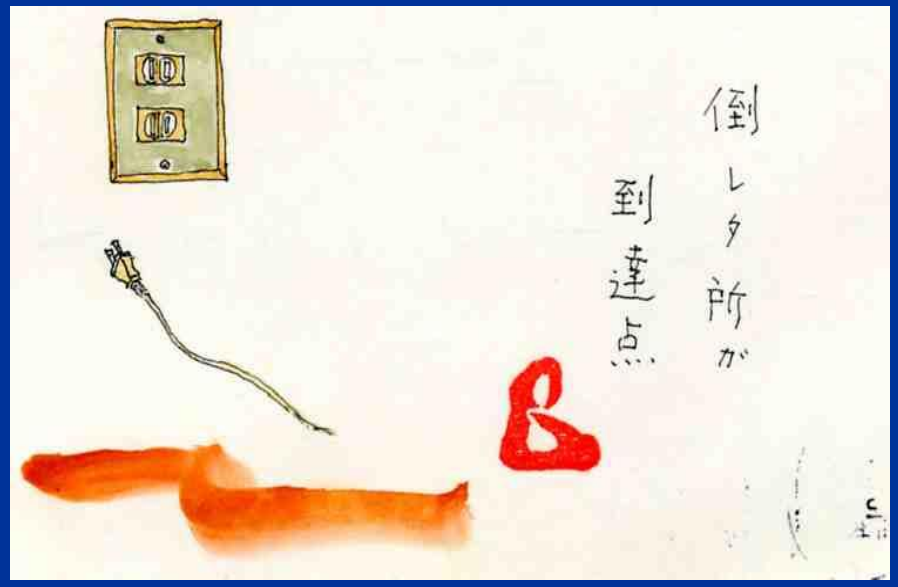

刈り取られた
田圃に緑
まだ
生きている


一合は一合の
不幸
一升は一生の不幸
山頭火
しからば
百合は何如
百合えば
分かる

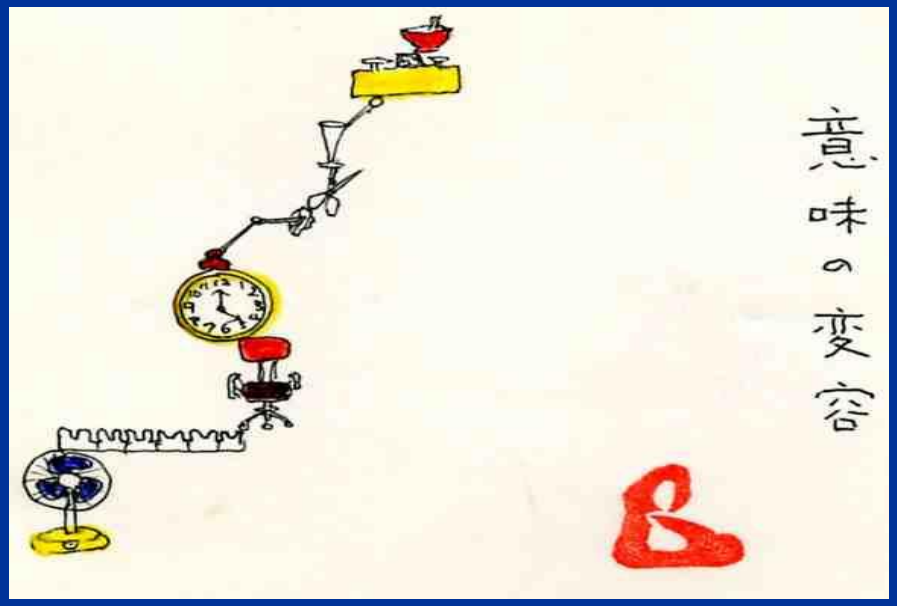

ゆっくり
水の流れにまかせる
川
のんびり
のびやか
のどちんこ

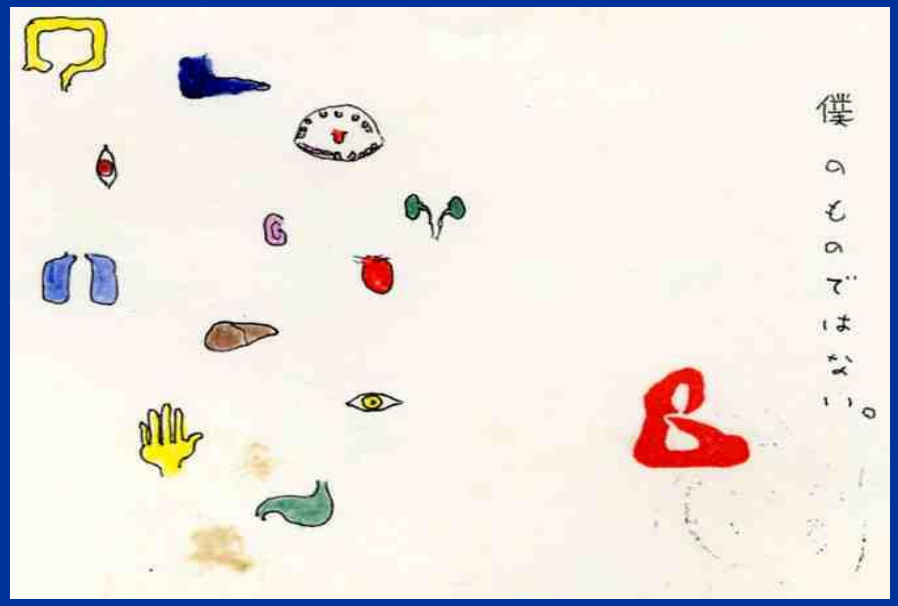
金さんからの手紙　３

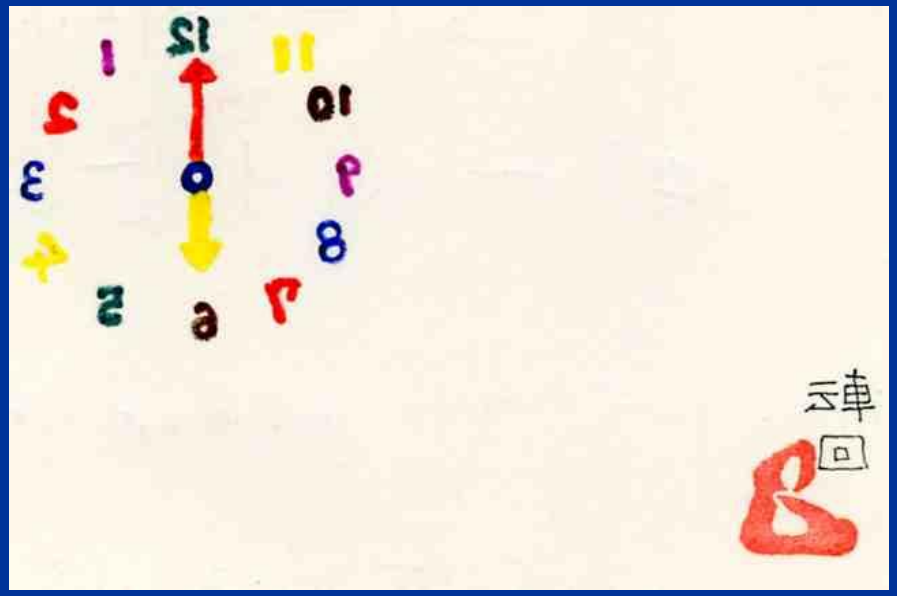


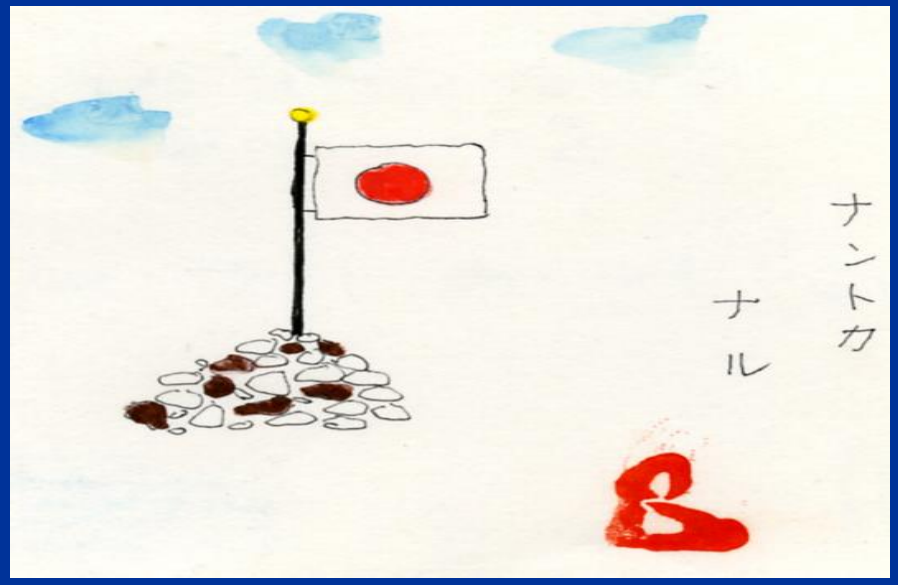


金さんからの手紙　４

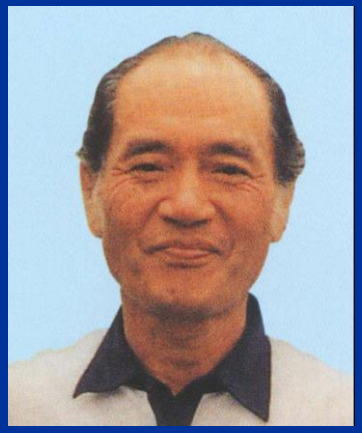








司会　　；「音楽療法士が他職種と連携して
いくうえで大切なことは？」



（松井紀和　先生）

；「みんなに好かれることですよ」

〈平成16年度東京音楽療法協会シンポジウムにて〉

鶴岡　一倫　先生

（前 杵築オレンジ病院院長）

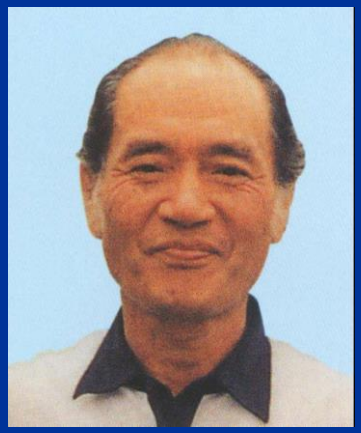
- 人吉（熊本県）にて出生
- 教会音楽、アコーディオン
- 熊本大学医学部卒業
- 外科 ⇒ 精神科
- 昭和40年代から音楽療法実践
- 平成５年、杵築オレンジ病院開設
- 平成９年、大分研究会（当会）設立
- 平成１３年９月より
  長期療養後、平成２１年永眠

『音楽とは、
人間によって組織づけられた
音響である』　（J.ブラッキング、1978）

⇒ジムノベティ（サティ）？

〈音楽の特性　（松井紀和、1995.）　〉

① 知的経過を通らず、直接情動へ働きかける
② 自己愛的満足感をもたらし易い
③ 人間の美的感覚を満足させる
④ 発散をもたらす方法として有用
⑤ 身体運動を誘発する
⑥ コミュニケーションの手段となる
⑦ 音楽は、一定の法則性の上に構造化されている
⑧ 多様性があり、適応範囲が広い
⑨ 統合的精神活動が必要である
⑩ 集団音楽活動では、社会性が必要とされる



〈音楽の中で表現されること〉

as a person　：　自己否定　⇔　自己愛
（個人要素）

as a dual unit ：　愛への絶望　⇔　希求
（対人要素）

as a society　：　諦め　⇔　希望
（対社会要素）

〔Key Words〕

- 両価性（ambivalence）
- 分裂機制（splitting）
- 諦観的自己価値
- 音楽の持つ即時性・即情性における統合的解決

〈音楽・ひとを取り巻くもの〉

（観念・価値）

音楽

（思い出・歴史）

（匂い）

ひと

（場面・場所）

・メロディ
・ハーモニー
・リズム、テンポ
・言葉
・音（質感）

表現・創造性

共有・共感
セラピスト

・身体
・こころ

動的作用

（社会・環境・風景）

（対人関係：出会い・別れ）

（時間：消え行くもの・残るもの）

〈素材吟味の課題～セラピストと音楽〉

・セラピスト自身の音・音楽への気づき

１）感受（音、音楽、ことば、リズム、テンポ）

２）享受（価値あるもの、美的なものと感じる）

３）表現（再現性、即興性、バリエーション）

・治療場面への気づき

１）対象者の理解（音楽能力・嗜好、心理的状態・状況）

２）治療課題の把握（自己完結課題、対人的解決課題）

３）治療の現実性（セラピストの理想を押し付けない）

〈精神科における音楽療法の特徴　１〉

- 第一義的には“心理療法の一技法”である

　『音楽療法において、対象者が表現した
ことがら（音楽、ことば、など）の
背景にあるもの（認知障害、不安、など）を
セラピストが考慮し
治療（症状改善）に導く』

- 第二義的意義として、“作業療法”、“社会技能訓練（SST）”、“理学療法”的側面

〈精神科における音楽療法の特徴　２〉

①認知障害モデル（おもには統合失調症）

・リズム、テンポ成分

・音高、メロディ、ハーモニー成分

⇒認知障害を病理性や他人関係における課題（ぎこちなさ）ととらえ、それらを改善する

〈リズム活動、歌の練習；music as therapy〉

②受容・共感体験モデル（疾患全体に対して）

・成育史、生活歴

・憩い、癒し

⇒音楽を通したクライアントーセラピスト、もしくはクライアント同士の関係性を重視

〈関わりの中での音楽　；music in therapy〉

〈私の研究実績〉

① 楽曲が提示する同時代性について
−20歳代の精神分裂病患者を対象としたデイケアにおける音楽療法実践から−
日本芸術療法学会誌, 1997、49−55

② 入院集団精神療法としての音楽療法 −療法の継続性・再現性の観点から−
音楽療法研究 / 臨床音楽療法協会 編、1998、35〜42 熊本 庄二郎、

③ 個人音楽療法における退行と依存 −精神分裂病の入院患者との治療過程を通して−
日本芸術療法学会誌, 2000、53−59.

④ クライアント・人・音楽の三者関係を促進した個人音楽療法
−統合失調症患者とのセッションから− 西日本芸術療法学会誌, 2003、29−33.

⑤ 統合失調症患者の音高特性 〜無伴奏独唱時の調選択から
日本音楽療法学会誌 4 (1), 87−95, 2004

⑥ 交互法的音楽療法−統合的芸術療法としての位置付け−
日本音楽療法学会誌 5 (1), 114−126, 2005

⑦コード機能から考える音楽療法的即興 −コードパターン即興技法を手がかりとして−
日本音楽療法学会誌 7 (1), 62−76, 2007

〈音楽活動中の詩作１〉

『私のそれざか』

うれしさに、まごころがある

やっぱりここの所でうれしいなら気持ちをあげる

出雲から来た、うれしい心になもなれてうれしい

命を大切にすると、私も一緒になれて、話せる

もっと、もっと、父母を考えることが、

できるなら･･･

〈音楽活動中の詩作　２〉

『心』

なぜにつっぱしるのだろう

わからない

どうしてさみしくなるのだろう

それを知らない

自分の心がわからなくなる

時々･･･。

〈音楽活動中の詩作　３〉

『空』

青い空
どこまでも広がる青い空
“にゅうどうぐも”が広がる夏の空
何かさみしさを感じる秋の空
雪の日に見る寒い空
希望がふくらむ春の空
今は、ジェット機がとんでいる
人類は、すごいなあ

“絵画にタイトルをつける”セッションにて　1

樵夫（ホドラー）

⇒『うぉっしゃー』

二人の労働者（前田寛治）

⇒『友人』

“絵画にタイトルをつける”セッションにて　２

恋人（シャガール）

⇒『愛してる』

流離抄版画柵（棟方志功）

⇒『かしこいキツネ』

“絵画にタイトルをつける”セッションにて　３

牛のいる風景（レッソー）

⇒『午後のひととき』

マドンナ（ムンク）

⇒『ミイラと乱反射』

交互法的音楽療法

～境界型人格障害患者との個人セッションを通して～

日本音楽療法学会誌 5 (1), 114-126, 2005

〈交互法の治療的位置付け〉

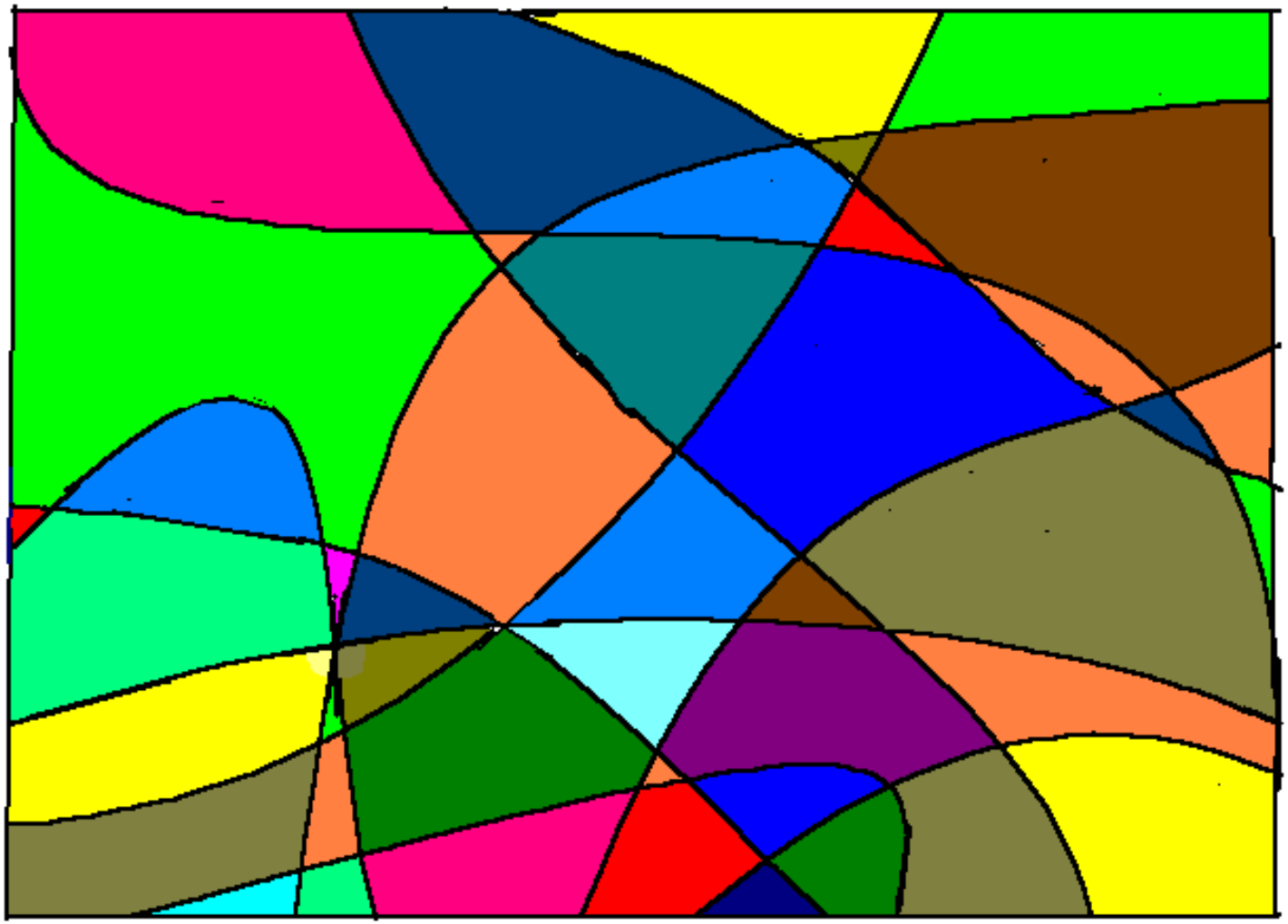
・交互、等量に関わり治療要素を見いだす
・課題遂行型や癒し系セッションとは異なる

①「無理なく行え、間を持て余さず、
“何かをさせている”雰囲気が少ない」（中里）
②“関与しながらの観察”（サリヴァン）
③ 表現の質的内容や治療者との“体験”こそが重要

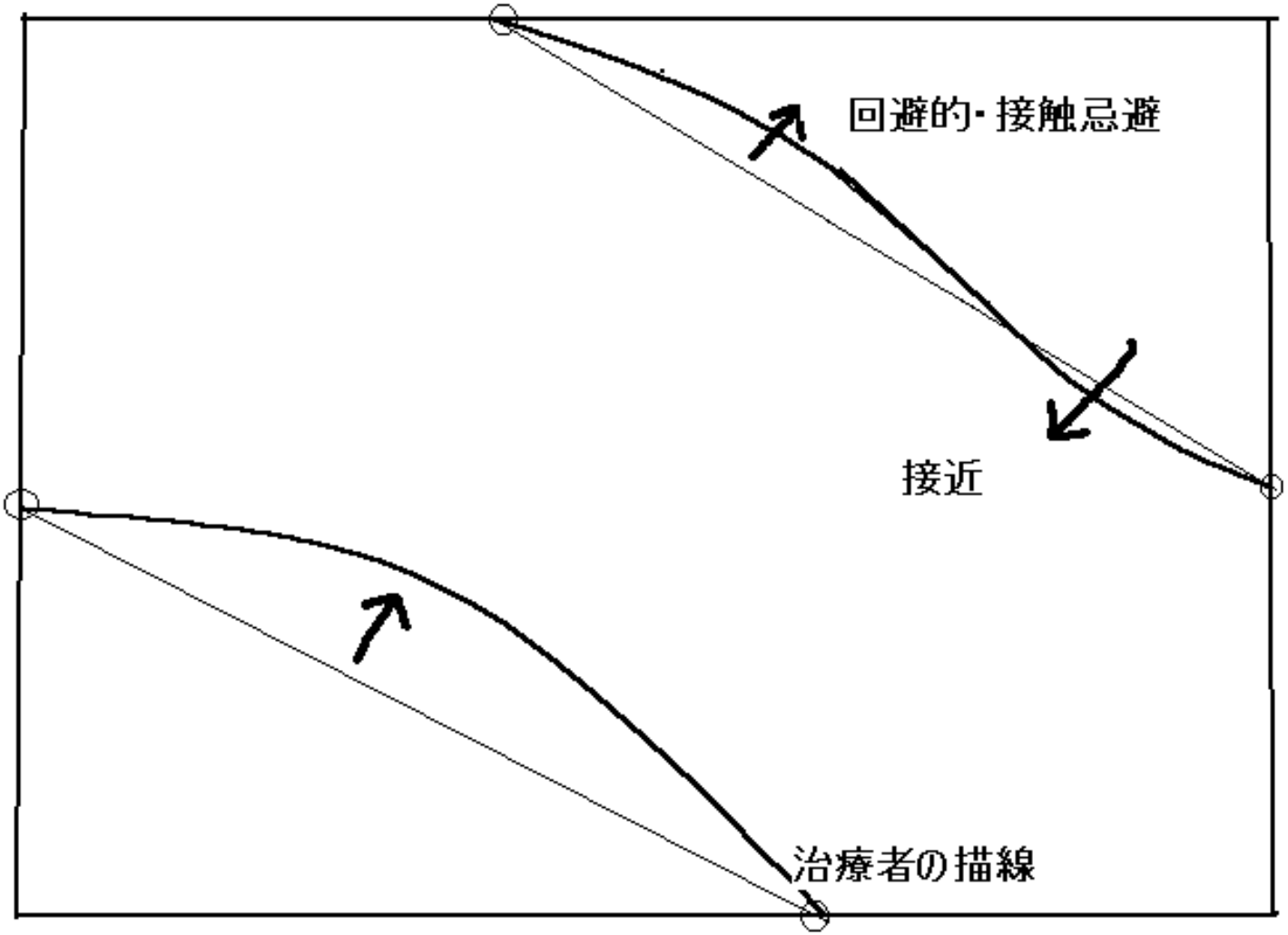
（交互法的音楽療法）

『描画・音楽・文芸（言葉）、それぞれの表現手段の特徴を
発達段階（退行レベル）、知的水準、情動の各レベルを
そのつど行き来させながら統合的な展開可能』

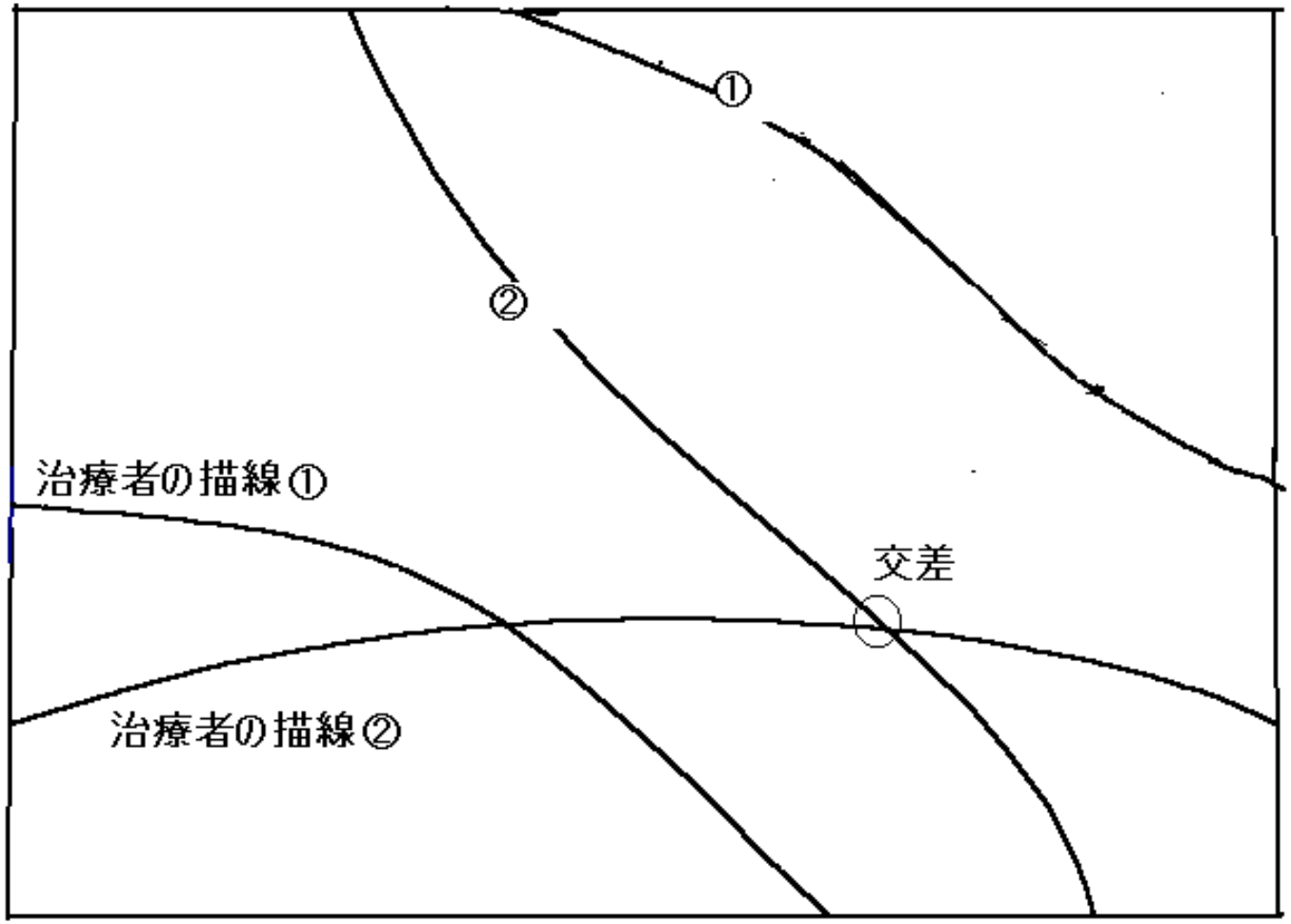
交互色彩分割法



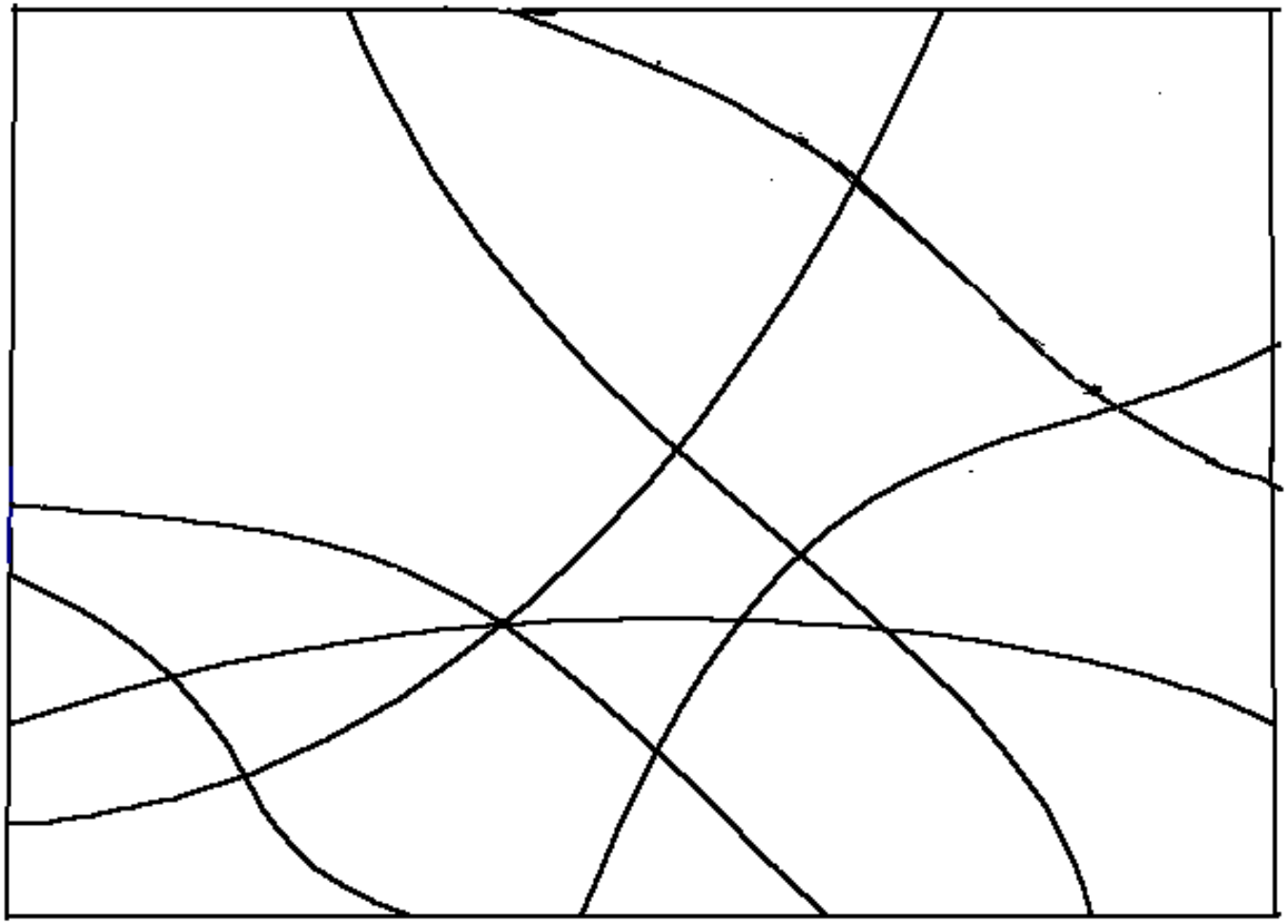
交互色彩分割法（1）



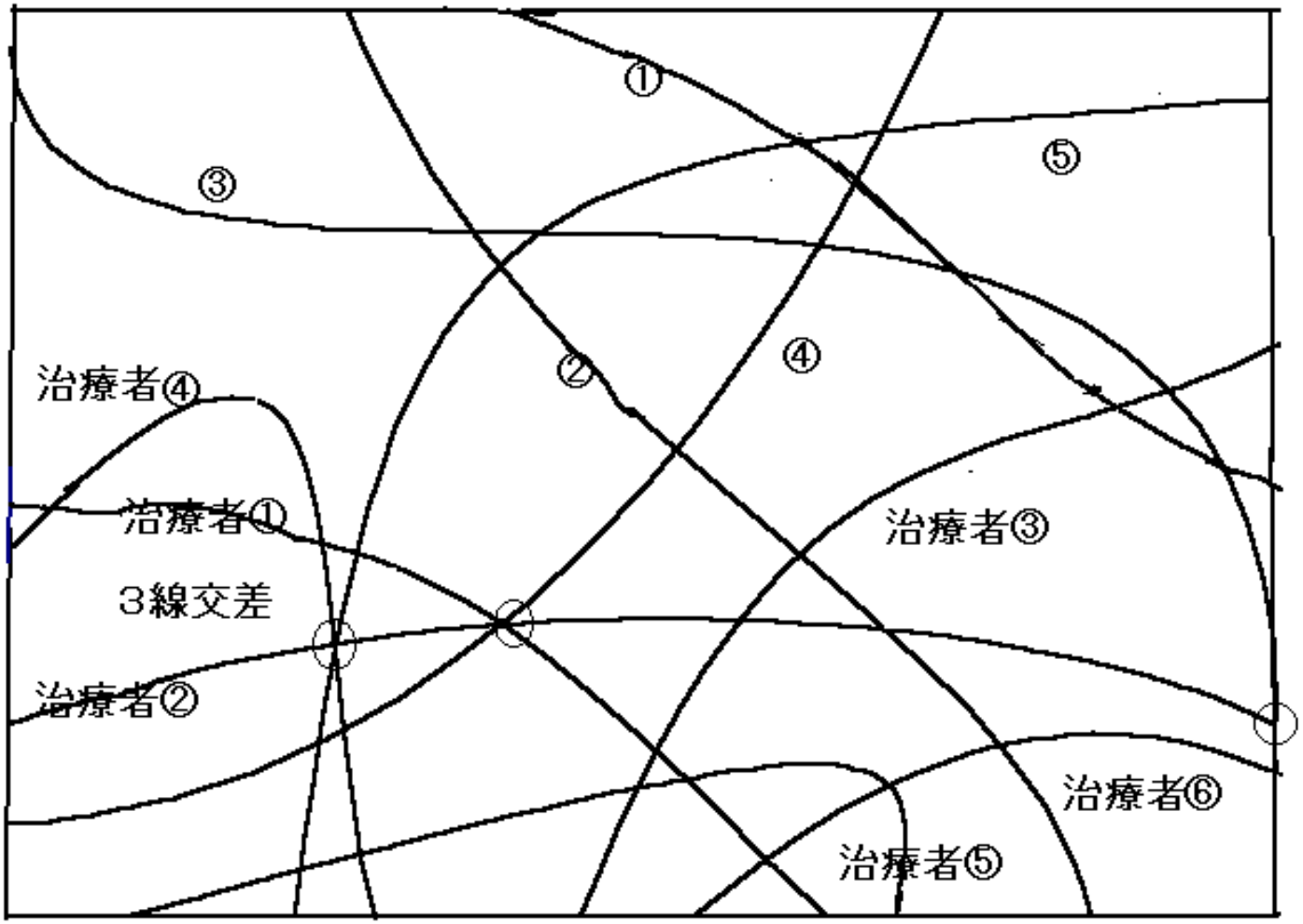
交互色彩分割法(2)



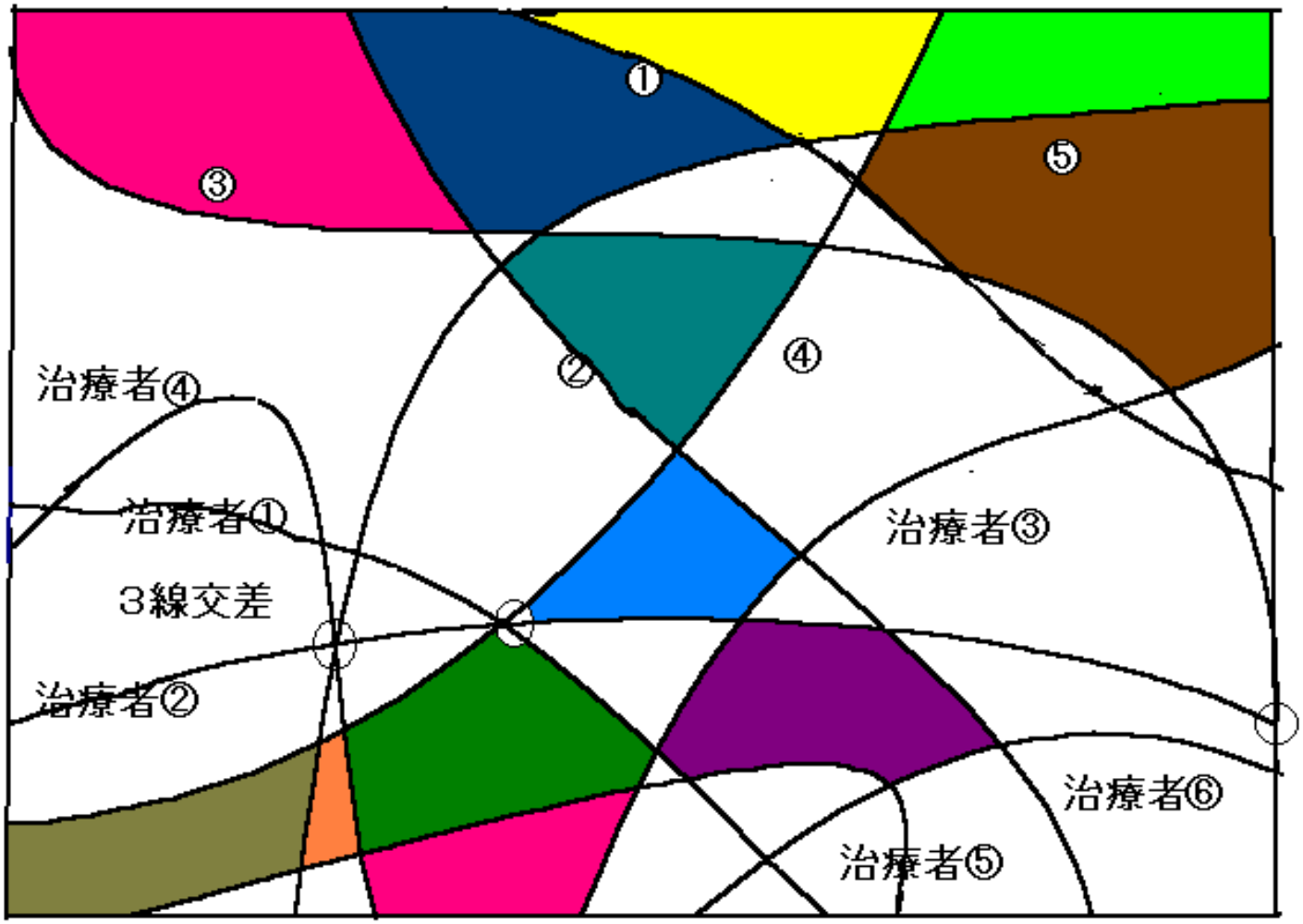
交互色彩分割法(3)



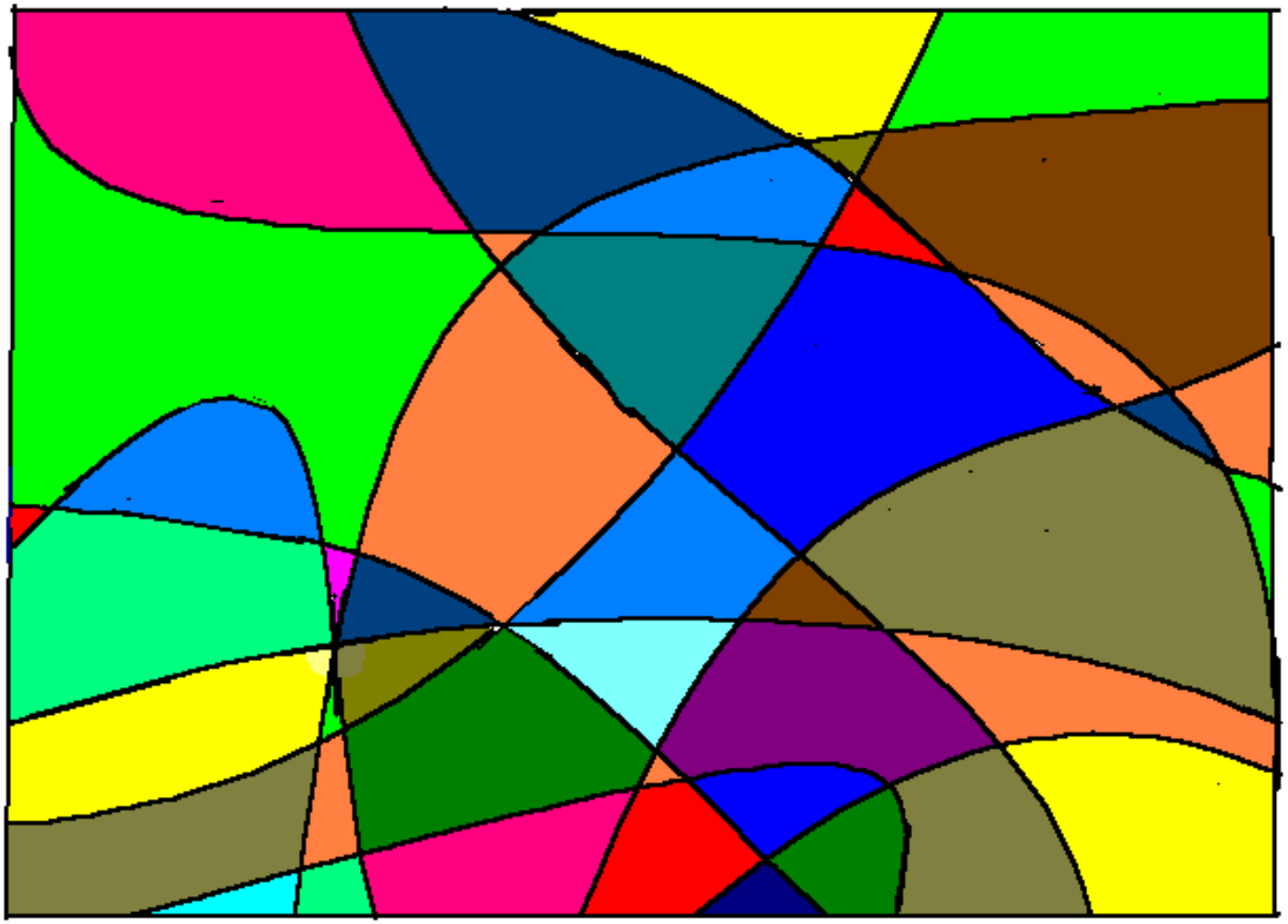
交互色彩分割法(4)



交互色彩分割法(5)



交互色彩分割法(6)



連句療法作品　32歳　男性　統合失調症

まきはら連句四十一

「ボリューム」の巻

ボリュームのある食事よし食の秋　事例

犬に牽かれて町内散歩　実生

駅近く商店街は人多く　事例

ネオンサインは色とりどりに　実生

ジャケットとスラックスとは外出着　事例

円安効果でファッション安く　実生

平成九年九月三日首尾

〈境界型人格障害患者との交互法的個人音楽療法〉

【事例】　Ａ氏、３６歳、女性、境界性人格障害

【家族歴】（Ａは両親と３人暮らし）
両親とも元教員で良識的人格者

【生育歴】小６より情緒不安定
不登校で高２で退学
家庭内暴力、入退院の繰り返し
地味な性格で以後の生活史とのギャップ

【現病歴　Ⅰ】（１７～３２歳；当院受診まで）

- 県外の精神科病院へ10回以上の入退院
- 服飾関係の店員、水商売、仕事続かず
- 拒食、ひきこもり
- 母親へ頻回の暴力
- 風俗、流産、自殺未遂
- ３２歳時、経済的、心理的限界から帰郷
- 家庭内不穏により当院受診

【現病歴　Ⅱ】
（当院受診～２回目入院まで；１年２ヶ月）

- 入院目標；『感情安定化』、『生活建て直し』
- 「自分は病気ではなく、今すぐ働きたい
なぜ私にだけに厳しいのだ」
- 他患者への暴力、スタッフとのトラブル
- 行動制限と薬物療法　⇒取り引き的対応
- あきらめと妥協の末、１年後退院
- 退院後２ヶ月で、父親を包丁で刺し再入院

【現病歴　Ⅲ】

（２回目入院～交互法導入まで；１年間）

- 「父親がひどいことを言ったからこうなった」
- 「この病院は自由がない、主治医が厳しく
  両親も主治医の言いなりだ」
- 処遇への不満と怠惰な生活の繰り返し
- 入院後８ヶ月めの外泊時、母親への暴力
- 「もう、一緒に住めない」（両親）

⇒長期入院にて治療膠着（もう、これ以上話しても仕方無し･･･）

⇒原因；治療者がＡの内的課題を重要視せず

〈交互法的音楽療法導入に際して〉

- 不適応だが、情動的には安定
- 目標喪失と慢性的空虚感がテーマ
- 主治医（演者）とは悪い関係ではない
- “微妙”を理解する穏やかな感受性
- 他者受容のキャパシティ

⇒言語的・構造的アプローチでは対応困難

①非言語的接近（ノン・バーバルアプローチ）

②内面へ眼差しを向けた、深い受容体験の契機

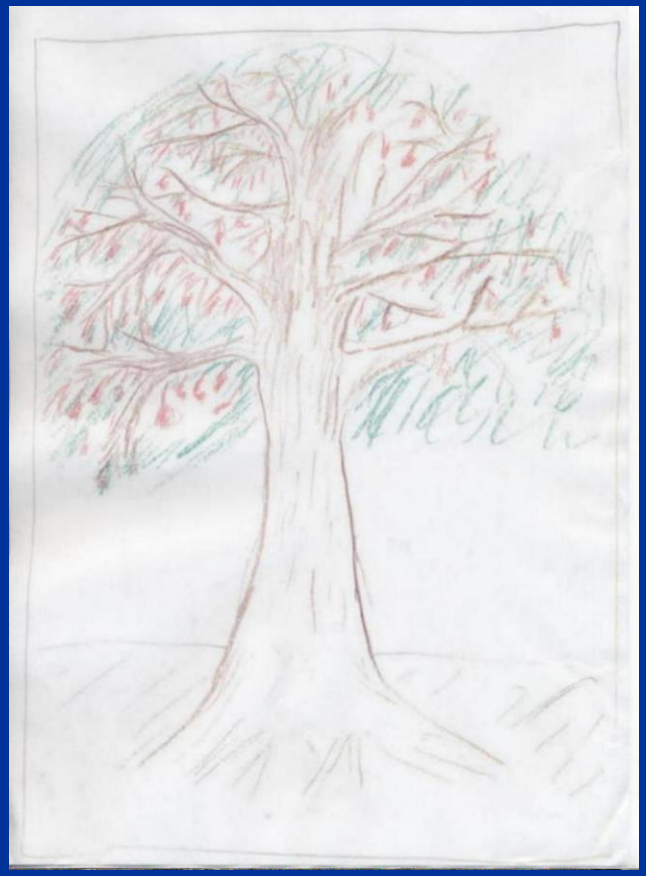
セッションの風景

〈方法〉

- 週１回、昼食後１時間、作業療法室
- メニューは、①交互描画
  ②交互歌唱
  ③交互文芸　から選択
- ①、③施行時は、交互にＢＧＭを選び、
  セッション終了時に最低１曲ずつ交互歌唱
- 表現は治療者から
- 歌唱は、『ワンコーラスにて可、気分が乗れば
  フルコーラスでも可、感情を込めず鼻唄程度』
- 軽い会話、沈黙も可

＃１（相互バウムテスト的描画）　03.07.14.

Ａ



主治医（私）

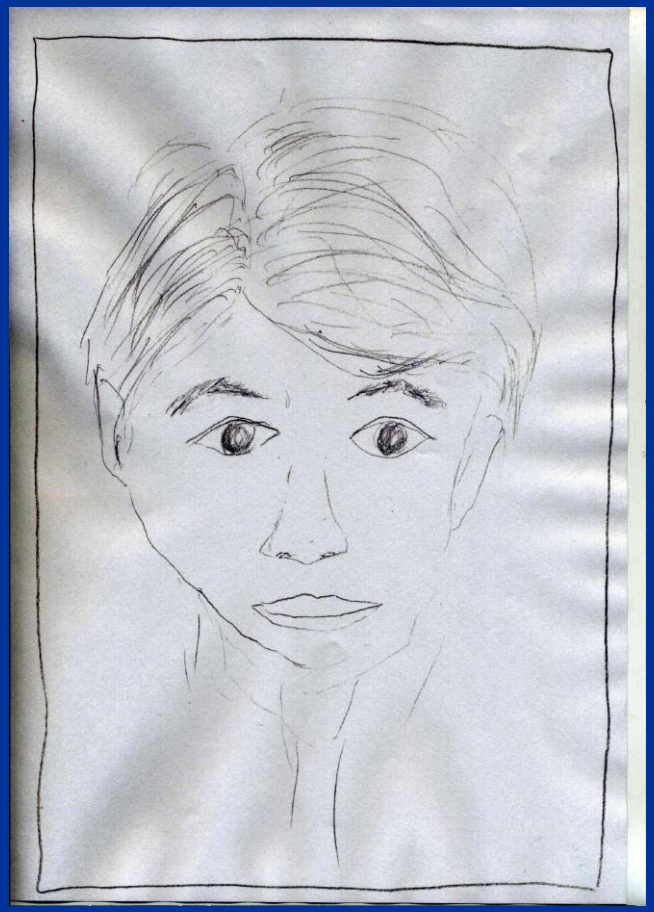
〈ＢＧＭ〉

1. Oh!クラウディア
2. いとしのエリー
3. EMANON
4. セシル
5. 千流の愛
6. 旅立ちはフリージア
7. ロックンルージュ
8. ラブイズオーバー

♯３（相互自画像）

03.08.04.

A



主治医

〈ＢＧＭ〉

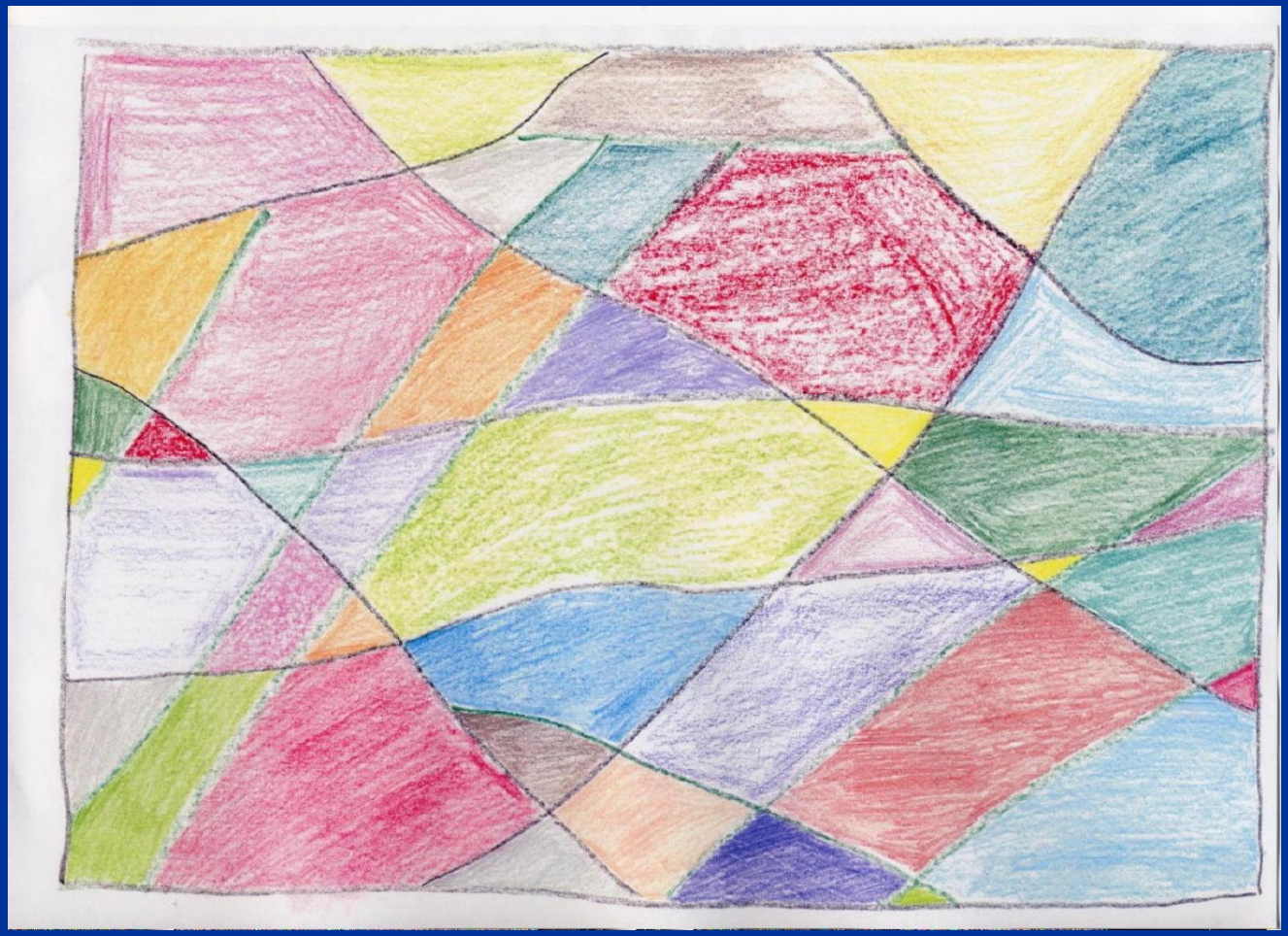
1. Shinning On
2. Treasure
3. Season in the sun
4. 瞳でLoving You
5. 青空、ひとりきり
6. オリビアを聴きながら
7. 空も飛べるはず
8. AUTOMATIC

〈交互歌唱〉

9. 少年時代
10. 貴方に逢いたくて

♯４（交互色彩分割）

03.08.13.



〈ＢＧＭ〉

1. ファイト
2. Love You
3. すみれ色の涙
4. 窓
5. しあわせ未満
6. しあわせ芝居
7. 恋
8. 2億4千万の瞳

〈交互歌唱〉

9. 時の過ぎ行くままに
10. 悪女

＃６（交互コラージュ）

03.08.25.

『夏のお嬢さん』（Ａのつけたタイトル）

〈ＢＧＭ〉

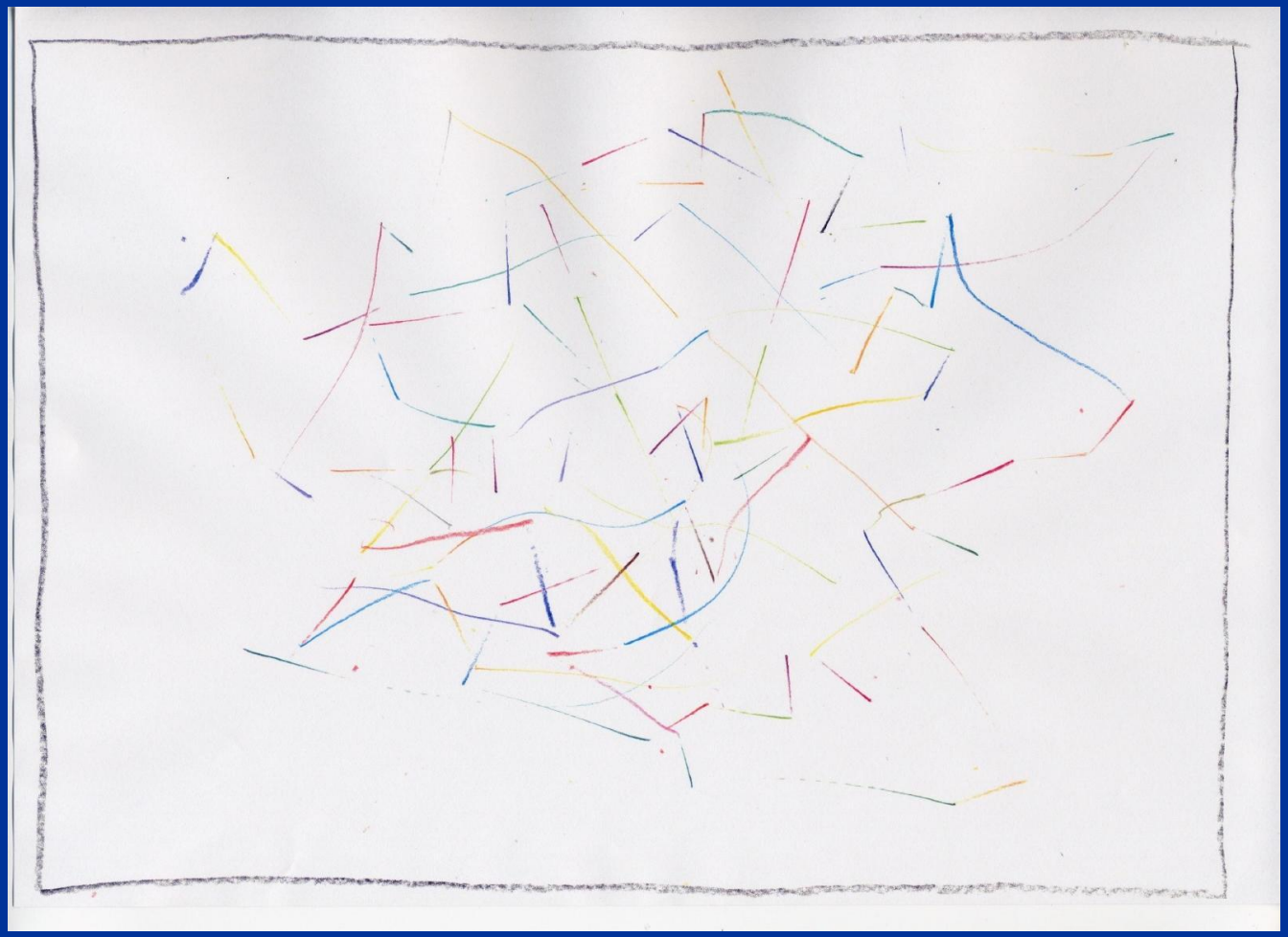
1. 夏の終わりのハーモニー
2. 北ウイング
3. サチコ
4. 愚図
5. ハッとしてグー
6. Stranger Tonight
7. You're only shinning star
8. True Love

〈交互歌唱〉

9. 想い出がいっぱい
10. SAKURAドロップス

♯７（交互色鉛筆倒し）

03.09.01.



〈ＢＧＭ〉

1. オリビアを･･･
2. 横須賀ストーリー
3. 哀愁でいと
4. 悲しみの
   モニュメント
5. 蒼いスタシオン
6. 天国へ一番近い島
7. 愛情物語
8. ジプシークイーン

〈交互歌唱〉

9. 夜空ノムコウ
10. 慟哭

＃９（交互エアブラシ）

03.09.16.

『ピカソ』

〈ＢＧＭ〉

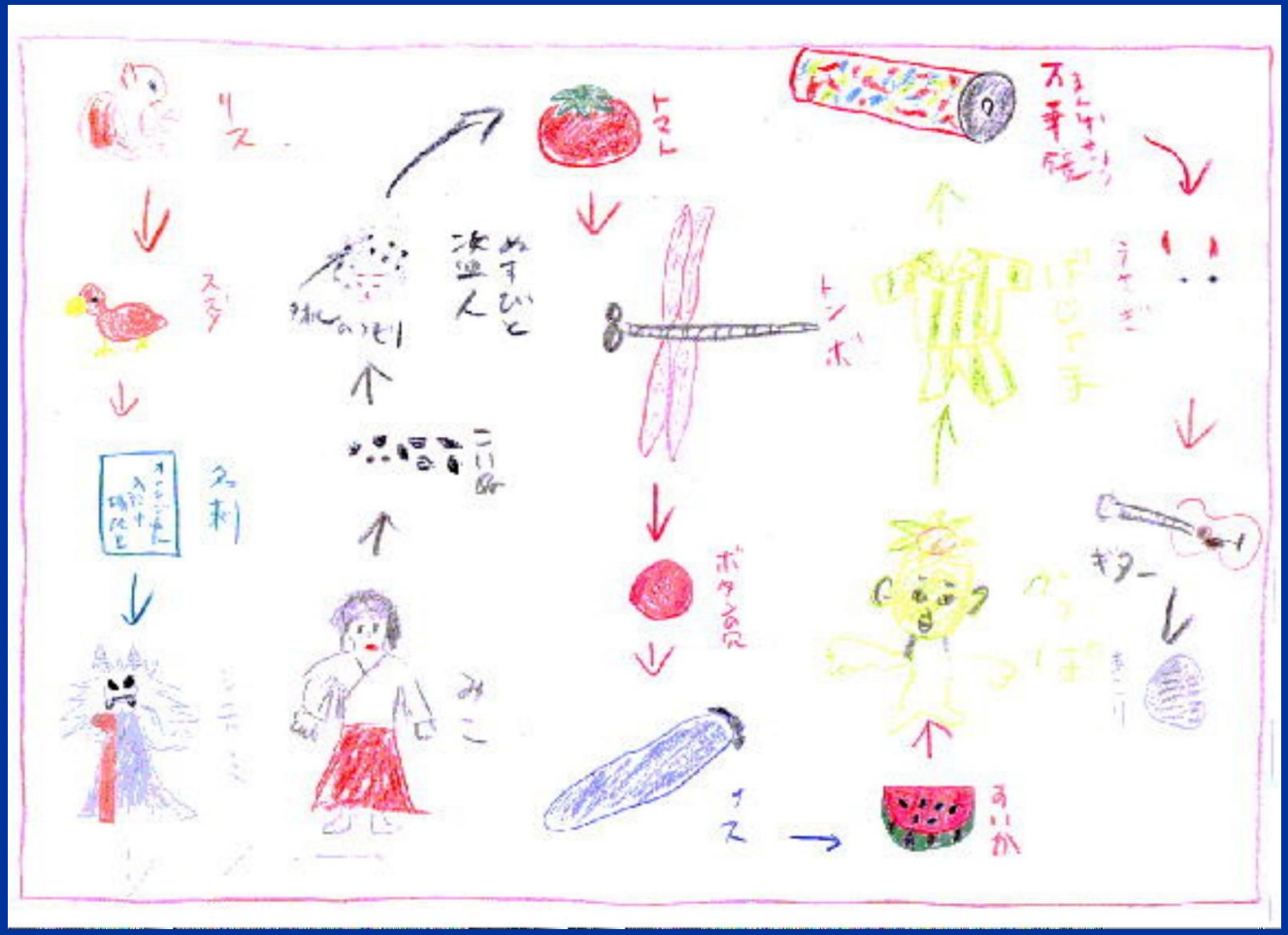
1. くちびるNetwork
2. 眠れぬ夜
3. 銀河鉄道999
4. ついてるね、
   のってるね
5. 恋の予感
6. Waku Wakuさせて

〈交互歌唱〉

9. ひこうき雲
10. 楽しく嬉しく
    優しくね
11. 赤いハイヒール
12. 散歩道

＃１１（絵しりとり）

03.09.29.



〈ＢＧＭ〉

1. 地上の星
2. シンデレラサマー
3. 心の旅
4. 情熱・熱風
   セレナーデ
5. Hello, My Friend
6. 真夏の一秒

〈交互歌唱〉

7. ハイティーンブギ
8. たそがれMy Love
9. ガンダーラ
10. だってしょう
    がないじゃない

♯１８～２０（交互歌唱）

〈♯１８〉03.12.01.

1. 私鉄沿線
2. Oh My Little Girl
3. ハッとしてグーッ
4. 時の流れに身をまかせ
5. 年下の男の子
6. Liar
7. サムライ
8. 野バラのエチュード

〈♯１９〉03.12.08.

1. 俺たちの旅
2. Everything
3. 愛のある場所
4. 亜麻色の髪の少女
5. フラワー
6. Rasberry Dream
7. 真夜中のDandy
8. リンダ
9. プライド
10. 瑠璃色の地球

〈♯２０〉03.12.15.

1. 慕情
2. 光
3. 東京ブルース
4. Sweet 19 Blues
5. キャンディ
6. Missing
7. カモメはカモメ
8. 負けないで

♯２４、２５（交互歌唱）

〈♯２４〉 *04.01.13.*

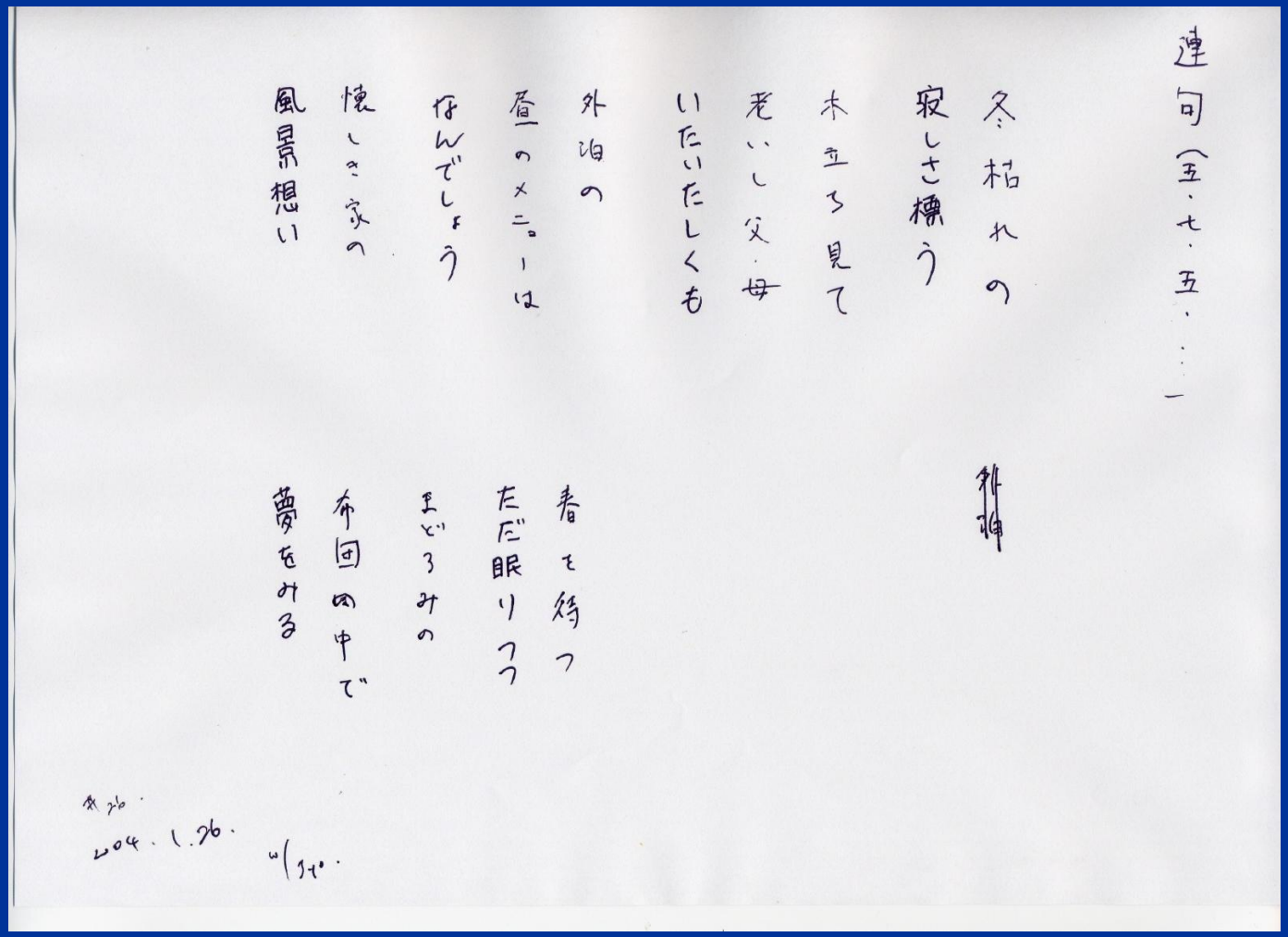
1. 白い想い出
2. そばかす
3. 空も飛べるはず
4. 雪の華
5. 悲しみは雪のように
6. Love Love Love
7. 銀座カンカン娘
8. ひとり上手
9. コード伴奏による即興

〈♯２５〉 *04.01.19.*

1. Oh!クラウディア
2. ミ･アモーレ
3. 俺たちに明日はある
4. ポケベルが鳴らなくて
5. どうにかなるさ
6. 飛んでイスタンブール
7. どうぞこのまま
8. ベストフレンド
9. コード伴奏による即興

＃２６（交互詠歌）

04.01.26.



連句（五・七・五・……）

冬枯れの
寂しさ標う

木立ち見て
老いし父・母
いたいたしくも

外泊の
昼のメニューは
なんでしょう

懐しき家の
風景想い

春を待つ
ただ眠りつつ
まどろみの
布団の中で
夢をみる

〈ＢＧＭ〉
BGMなし

〈交互歌唱〉
1. 空も飛べるはず
2. 守ってあげたい

＃３２（交互詠歌）

04.03.08.

連句

'04 3/8

菜の花の　眠れぬ夜
花の香りに　窓を見つめて
さそはれて　唯一人
春の訪れ　寂しい心
心ときめく　オーマイロンリネス

昼ごはん
何が出るかな
菜待つ
待ちどおしくて
あちこち歩く

〈ＢＧＭ〉

1. SHE
2. NYC Serenade
3. Shdows of The Street
4. 眠れぬ夜
5. グッバイから始めよう
6. 雨を見たかい

〈交互歌唱〉

7. 年下の男の子
8. 嵐の素顔
9. バルセロナの夜
10. 告白

- 「存在感がなくなったわね」
（看護スタッフ）

- 逸脱行為、感情暴発の減少

- 「ほんとうは個人療法は
イヤでしょうがないんですよ」
（Ａ）

♯４５（コード伴奏即興）

04.07.29.

・最後のセッション
・以下の３パターンを繰り返し２０分程度の短時間で終了

１．Ｃ⇒Ｃ(onB)⇒Ａｍ⇒Ａｍ(onG)⇒Ｆ⇒Ｃ(onE)⇒Ｄｍ7⇒Ｄｍ7(onG)
〈ベースが降りていくカノンのパターン〉

２．Ａｍ⇒Ｄ7⇒Ｇ⇒Ｃ；３拍子の回転系パターン

３．Fmaj7⇒Ｅｍ7⇒Ｄｍ7⇒Ｃ；Lovin’Youのパターン

「明日で退院おめでとうございます。
２年間、長かったですがよくがんばりましたね」（主治医）
「ありがとうございました」（Ａ）

〈考察〉

〔方法論〕・対等な役割分担を手続きとしつつも、
治療者が「枠」「主導権」を緩やかに請け負う

・負担少なく簡単で自由な表現を保障し、
支える（添う）プロセス

〔素材性〕・退行的描画、情動的音楽、統合機能的文芸

・音楽の役割
①緩衝素材、②内面の投影、③ほどよい退行

〔治療性〕・他者の支えを感覚的に受け入れる体験
①気楽かつ肯定的に他者と関わる契機
②相互受容

・若干のさせられ体験が主体性を預ける安心感

〈コードパターン即興技法〉

⇒ 資料②へリンク（右下線部をクリック）　コードパターン即興技法のホームページ (kucocoro.jp)

①個人療法の場合

・ギター、ピアノでコード伴奏を支え、クライアントはピアノ、
　ザイロホーン、メタルホーンの幹音（白鍵）を鳴らす
・「伴奏を聴きながら、合う音探しをしよう」もしくは、
　「伴奏のリズムに合わせて音を叩いて下さい」と提示
・厳密にいえば、不協音もあるが、「経過音」という音を発する事になり、
　全体のリズム性にさえ乗っていれば、ほとんどの場合「演奏」として成立
・“合わない感じ”が慣れてくると“合った感じ”になることも
・“旋律”を意識するよりも、あくまでも“音探し”というニュアンスで
・進行のなかに“展開”を取り入れる
・verse（テーマ）⇒bridge（展開）⇒verse（テーマ）に戻る

②集団療法の場合

・基本的には個人療法の場合と同じ
・声による“音支え”や、打楽器による参加や
　複数のメロディ楽器を用い、より合奏的展開も可能